

# 遷宮80年、本殿塗り替え

## 浄財募り今秋にも着工

### 足利織姫神社

【足利】足利織姫神社奉賛会（石井金吾会長）は、来年の同神社遷宮80年記念事業として、本殿の色の塗り替えや社務所、西側参道（女坂）の整備などに取り組む方針を決め、今秋にも着工する。費用は約3千万円を見込んでおり、地元経済界だけでなく、広く市民からも寄付を募る考えだ。同会は「地域に根差した神社を目指している。厳しい経済環境だが、ぜひ支援をお願いしたい」と協力を呼び掛けている。（根津知広）

同神社は1937年、足利織物同業組合などの寄付で西宮町に現在の建物が建設された。織姫山中腹の境内から市内を一望することができ、地元では産業振興や縁結びの神様としても親しまれている。

2007

年の遷宮70年の際も地元から寄付を募り、足利織物の歴史を記した石碑の設置や、女坂の崩れた石段を修復するなどした。今回は20年ぶりに本殿を鮮やかな朱色に染め直すほか、老朽化が進む社務所の整備、女坂

レストラン棟」から両崖山に向かう散策路約2キロに、桜の木を植えることも検討している。

同神社は14年に「恋人の聖地」と「日本夜景遺産」に相次いで認定されるなど注目度が高まっており、15年度の参拝客は34万人に達した。

今春公開された映画「ちはやふる」のロケ地としても使用された。

同会の熊谷正事務局長は「神社の整備を通じ、史跡足利学校や鑊阿寺と並ぶような、市中心部の観光スポットになれば」と期待している。



来年の遷宮80年に向けて整備が計画される

足利織姫神社

整備、女坂